

精神専門

問 題

◎ 指示があるまで開かないでください。

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
2019年度社会福祉士・精神保健福祉士全国统一模擬試験

注 意 事 項

1 試験時間等

専門科目の試験問題数は80問で、解答時間は2時間20分です。

2 解答用紙への氏名等の記入

はじめに、解答用紙に学校名、氏名を記入してください。次に、右側の一番上の欄に受験番号を記入し、その下のマークシートの欄には、受験番号の英字及び数字に対応する○を、次表の例にならって塗りつぶしてください。

(例) 受験番号 1 6 A 0 1 2 - 3 4 5 6 H の場合

社会福祉士
精神保健福祉士
全国统一模擬試験
(精神専門) 解答用紙

学校名	ソーシャルワーク大学
氏名	ソ 教 連 子

受 験 番 号	1	6	A	0	1	2	-	3	4	5	6	H
①	①	●	●	①	①	①		①	①	①	①	A
●	①	B	①	●	①	①		①	①	①	①	B
②	②	C	②	②	●	②		②	②	②	②	C
③	③	D	③	③	③	③		●	③	③	③	D
④	④	E	④	④	④	④		④	●	④	④	E
⑤	⑤	F	⑤	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤	●	⑤	F
⑥	●	H	⑥	⑥	⑥	⑥		⑥	⑥	⑥	●	G
⑦	⑦	P	⑦	⑦	⑦	⑦		⑦	⑦	⑦	⑦	●
⑧	⑧	Q	⑧	⑧	⑧	⑧		⑧	⑧	⑧	⑧	J
⑨	⑨	W	⑨	⑨	⑨	⑨		⑨	⑨	⑨	⑨	K

(注意) この場合、0も必ず塗りつぶしてください。

3 解答方法

(1) 出題形式は五肢択一を基本とする多肢選択形式となっています。各問題には1から5まで5つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを〔例1〕では1つ、〔例2〕では2つを選び、解答用紙に解答してください。

〔例1〕 問題 201 次のうち、県庁所在地として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 函館市
- 2 郡山市
- 3 横浜市
- 4 米子市
- 5 北九州市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、③ を塗りつぶして、

問題 201 ① ② ● ④ ⑤ としてください。

〔例2〕 問題 202 次のうち、首都として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 シドニー
- 2 ブエノスアイレス
- 3 上海
- 4 ニューヨーク
- 5 パリ

正答は「2と5」ですので、解答用紙の

問題 202 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、② ⑤ を塗りつぶして、

問題 202 ① ● ③ ④ ● としてください。

- (2) 採点は、光学式読取装置によって行います。解答は、鉛筆を使用し、○の外にはみださないように濃く塗りつぶしてください。なお、シャープペンシルは問題ありませんが、ボールペンは使用できません。

良い解答の例……………●

悪い解答の例…………… (解答したことになりません)

- (3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、 のような消し方などをした場合は、訂正したことになりませんので注意してください。
- (4) 〔例1〕の問題に2つ以上解答した場合は、誤りになります。〔例2〕の問題に1つ又は3つ以上解答した場合は、誤りになります。
- (5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないように特に注意してください。

4 その他の注意事項

- (1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。
- (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。
- (3) 試験終了後、この試験問題はお持ち帰りください。
- (4) この試験問題は、複製、譲渡、電子記録媒体への記録・転載等を固く禁じます。
- (5) この問題冊子の50ページ以降はアンケートの質問紙です。試験中は開かないでください。試験終了後、試験官の指示に従って回答してください。

精神疾患とその治療

問題 84 脳と神経の構造に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 中心溝は前頭葉と側頭葉の境界である。
- 2 外側溝は運動野と感覚野の境界である。
- 3 脳神経は末梢神経に区分される。
- 4 脊髄神経は中枢神経に区分される。
- 5 小脳は小脳脚で大脳と連絡する。

問題 85 発達障害（神経発達障害）に関する記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自閉スペクトラム症（小児自閉症）は、女性に多くみられる障害である。
- 2 自閉スペクトラム症（小児自閉症）は、青年期以降もその症状に変化はみられない。
- 3 自閉スペクトラム症（小児自閉症）は、青年期以降に統合失調症を合併する確率が高い。
- 4 注意欠如・多動症（注意欠陥／多動性障害）は、青年期以降の社会的、学業的機能に障害をもたらすことはない。
- 5 注意欠如・多動症（注意欠陥／多動性障害）には、メチルフェニデートが有効である。

問題 86 症状ないし症候群に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保続は、思考が1つのことにこだわって進まない症状である。
- 2 振戦せん妄は、統合失調症の急性期にみられる症状である。
- 3 観念奔逸は、別人格の出現により主人格の観念が逸脱する症状である。
- 4 思考の制止は、幻聴などにより思考の流れが中断する症状である。
- 5 コルサコフ症候群は、統合失調症の慢性期にみられる症候群である。

問題 87 Aさん(48歳, 男性)は、会社員で精神疾患の既往はない。3年前に管理職に昇進し、1つの事業部を任されていたが、部下の一人が職務内容を十分理解できず、同じミスを繰り返す状態が続いていた。注意して正しい手順を説明しても修正されず、さらにコミュニケーションが困難で部署全体が疲弊し、そのトラブル処理にもAさんがあたっていた。約1か月前から睡眠が浅く、朝4時頃から目覚めるようになった。また、考え込む時間が長く、物事を決めるのにも時間がかかるようになった。ここ2週間は、食欲不振、疲労感が強く、趣味の野球観戦にも行く気がせず、ひいきのチームが出る試合にも関心がもてない状態が続いている。そのため、産業医に相談し、精神科を受診した。

次のうち、Aさんの治療を行うにあたり、注意しなければならないものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 睡眠欲求の極端な減弱
- 2 慢性的な空虚感に伴う激しく不安定な対人関係
- 3 誇大妄想に伴う逸脱行動
- 4 希死念慮の増大
- 5 被害妄想に伴うひきこもり

問題 88 認知症に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 認知症の中核症状には、幻覚や妄想、徘徊などの精神症状が含まれる。
- 2 血管性認知症では、初期より人格の変化が目立つ。
- 3 軽度認知障害は、アルツハイマー病（アルツハイマー型認知症）の前駆状態と考えられている。
- 4 ピック病（前頭側頭型認知症）では、初期より側頭葉の障害が著明に認められる。
- 5 びまん性レビー小体病（レビー小体型認知症）では、具体的な内容の幻視が繰り返し認められやすい。

問題 89 次の病態と検査名の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 知的障害 ————— SDS
- 2 パーソナリティ障害 —— SCT
- 3 失語・失行・失認 —— MMPI
- 4 気分障害 ————— WAIS
- 5 認知症 ————— TAT

問題 90 次の症状ないし疾患と治療薬の組合せのうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 幻覚・妄想状態 —— フェニトイン
- 2 躁状態 ————— イミプラミン
- 3 アルツハイマー病 —— ドネペジル塩酸塩
- 4 てんかん発作 —— リスペリドン
- 5 パニック障害 —— パロキシセチン

問題 91 認知行動療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 認知行動療法は、気分障害（うつ）の治療法として始まった。
- 2 認知行動療法は、統合失調症の急性期にみられる被害妄想や関係妄想の修正に有効である。
- 3 認知行動療法では無意識の世界に焦点を当て、自由連想法を用いて生育歴上の問題点を明らかにする。
- 4 アルコール関連障害では認知行動療法は用いられない。
- 5 パニック障害では、発作時の思考を思い返すことが困難なので認知行動療法は用いられない。

問題 92 精神保健医療の動向に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「平成29年患者調査」（厚生労働省）によると、「精神及び行動の障害」で入院する患者数は、循環器系の疾患による入院患者数に次いで2番目に多い。
- 2 「平成29年医療施設（静態・動態）調査・病院報告」（厚生労働省）によると、2017年（平成29年）の精神病床の平均在院期間は267.7日で、前年度より短縮している。
- 3 「平成26年患者調査」（厚生労働省）によると、2014年（平成26年）の疾患別の精神病床入院患者数で、最も多いのは気分障害である。
- 4 「平成26年患者調査」（厚生労働省）によると、2014年（平成26年）の統合失調症の精神病床入院患者数は、認知症の入院患者数より多い。
- 5 「平成29年患者調査」（厚生労働省）によると、精神病床入院患者数のうち、気分障害の患者数は2008年（平成20年）から2017年（平成29年）にかけて2倍に増加している。

問題 93 精神科病院に入院中の者の隔離に関する記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 12時間を超えない患者の隔離は、看護師の判断で行うことができる。
- 2 身体的合併症を有する患者を、検査や処置の目的により隔離することができる。
- 3 患者の隔離は、まず周囲の者の安全と保護とを目的として行われる。
- 4 患者2名を同じ部屋に入室させ、外から施錠する場合は、隔離に該当する。
- 5 閉鎖的な環境の部屋に、患者が希望して入室する場合は、隔離に該当する。

精神保健の課題と支援

問題 94 緩和ケアと精神保健に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 緩和ケアとは、「生命予後が6か月以内と考えられる段階」にある人を対象とした援助のことである。
- 2 全人的苦痛（トータルペイン）とは、身体的、精神的、社会的の3つの苦痛のことをいう。
- 3 全人的苦痛（トータルペイン）のうち精神的苦痛に関して、キューブラー・ロス（Kubler-Ross, E.）は自身の体験をもとに死の受容のプロセスを示した。
- 4 緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者だけに対して、苦しみの予防や緩和により生活の質を改善することである。
- 5 緩和ケアの実践は、疼痛などの身体的苦痛が表出してから行うことが推奨されている。

問題 95 若者の自殺対策に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会の設置が都道府県に義務づけられている。
- 2 児童生徒がSOSを出したときに、受け止めることができる身近な大人を地域に増やすための取組を学校と教育委員会が連携して行う。
- 3 若者はインターネットやSNS上で自殺をほのめかしたり、自殺の手段を検索したりする傾向があるため、ICT（情報通信技術）を活用した若者へのアウトリーチ策が強化されている。
- 4 インターネット上の自殺関連情報対策として、自殺関連情報の削除依頼は文部科学省が行う。
- 5 2018年（平成30年）3月の自殺対策強化月間のSNS相談の実施結果では、相談内容で男女ともに最も多いのは「経済・生活」であった。

問題 96 要保護児童対策地域協議会に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 対象は、児童虐待を受けている子どもに限定されている。
- 2 「児童虐待防止法」に基づいて創設された児童虐待について協議する機関である。
- 3 地方公共団体に設置が義務づけられている。
- 4 要保護児童等に対する支援の内容について協議する機関である。
- 5 構成員または構成員であった者は、要保護児童対策地域協議会の職務で知り得た情報の守秘義務に反した場合には罰則がある。

(注) 「児童虐待防止法」とは、「児童虐待の防止等に関する法律」のことである。

問題 97 次のうち、スクールソーシャルワーカーの中核的業務として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 被虐待児の早期発見や適切な保護
- 2 ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的対応
- 3 教諭に対する教育指導
- 4 学校の枠を越えた関係機関等とのネットワークの構築，連携・調整
- 5 児童生徒の触法行為が認められる場合の学校運営協議会への働きかけ

問題 98 アルコール依存症及びギャンブル依存症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科医療機関はギャンブル依存症には関与しない。
- 2 ギャンブル依存症には「否認」はない。
- 3 アルコホーリクス・アノニマス（AA）は、匿名で参加する。
- 4 アルコール健康障害対策基本法の制定により、酒類の製造・販売を行う事業者には、アルコール健康障害対策に関する事業計画の策定が義務づけられた。
- 5 ギャンブル依存症は共依存である。

問題 99 患者調査に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 患者調査は、疾病状況等の現状を把握することを目的として、内閣府によって実施される。
- 2 患者調査は、5年に1度の頻度で実施される。
- 3 調査の内容には、性別、生年月日、患者の住所、入院・外来の種別や診断名、受療状況が含まれている。
- 4 対象者の選定は、全ての調査において都道府県別に層化無作為抽出し、抽出された医療施設を利用した患者を客体とする。
- 5 入院及び外来患者の調査時期は、10月中旬に指定される7日間のうち、医療施設ごとに定める1日である。

問題 100 メンタルヘルスアクションプラン 2013-2020の内容に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 国際連合によって策定され、メンタルヘルスの促進、精神疾患の予防やケアの推進を基本的なビジョンとしている。
- 2 前身となる「精神保健の格差に関する行動プログラム (mhGAP)」と同様の内容であり、発展途上国を主な対象としている。
- 3 全体目標には、精神障害者の死亡率を低下させることは含まれていない。
- 4 2020年までの目標として、世界の90%の国々がメンタルヘルスのための法律を制定または更新することを掲げている。
- 5 根拠 (エビデンス) に基づく実践を推奨しながらも、地域によってはインフォーマルなサービス提供者との連携の重要性も指摘している。

問題 101 災害派遣精神医療チーム（DPAT）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 DPATの活動として、犯罪事件や航空機・列車事故等の集団災害は除外されている。
- 2 被災地での活動にあたっては、被災都道府県等の保健所の指示に従う。
- 3 DPATは、精神科医と精神保健福祉士で構成される。
- 4 DPATの活動3原則として「自己完結型の活動」「積極的な情報共有」「名脇役であれ」が示されている。
- 5 被災した医療機関への専門的支援は、DPATの活動内容から除外されている。

問題 102 精神保健の専門職に関する記述として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 作業療法士は、医師の指示の下に作業療法を行う。
- 2 保健所で働くには、保健師の資格が必要である。
- 3 精神保健福祉相談員は、都道府県知事又は市町村長が任命する。
- 4 公認心理師は、医療機関で働く心理師のための資格である。
- 5 スクールソーシャルワーカーは、社会福祉法にその名称及び職務が規定されている。

問題 103 認知症に対する対策や支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 2017年（平成29年）からは、75歳以上のドライバーは、臨時認知機能検査を受けることになった。
- 2 認知症初期集中支援チームは、都道府県に設置が進められている。
- 3 地域包括支援センターには、医師、看護師、主任介護支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士が配置される。
- 4 認知症疾患医療センターの人員配置について、精神保健福祉士に関する規定はない。
- 5 精神保健福祉士が担うべき役割としては、権利擁護があげられる。

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 104 次の記述のうち、精神保健福祉士の活動が期待される社会的ニーズや対応について、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 スクールソーシャルワーカーは、学齢期の子どもの立場に寄り添った支援を行い、家庭・家族の支援も行う。
- 2 「医療観察法」では、精神保健福祉士が社会復帰調整官として対象者の入院処遇を決定する。
- 3 自殺対策として、精神保健福祉士はメンタルヘルスの不調を抱える本人のみを対象とした支援を行う。
- 4 児童虐待においては、虐待をする親の支援は行わない。
- 5 アルコール依存症や薬物依存症については、精神保健福祉士の活動が期待されているが、ギャンブル依存症については対象外である。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 105 次の記述のうち、社会福祉士と精神保健福祉士の資格について、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 社会福祉士の相談援助の対象となる人は、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者とされている。
- 2 社会福祉士及び介護福祉士法では、信用失墜行為の禁止として、社会福祉士又は介護福祉士はクライアントの信用を傷つけるような行為をしてはならないことが規定されている。
- 3 精神保健福祉士は、福祉の専門職であるため、日常生活への適応のための訓練は行わない。
- 4 精神保健福祉士の基盤となるものは、精神障害者の保健及び医学に関する専門的知識と技術である。
- 5 社会福祉士には資質向上の責務があるが、資格取得後は資格更新のための規定された研修はない。

問題 106 次の記述のうち、2014年に採択された、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 中核となる任務を社会変革と社会開発、社会的結束の促進、人々のリカバリーとしている。
- 2 多様性を尊重し、各地域・国の文化や社会状況に沿った定義の「展開」を認めている。
- 3 西洋的思想・近代的原理を尊重し、西洋の諸理論を中心に発展させていくことの重要性が記されている。
- 4 定義と解説、価値、理論、実践の項目で構成されており、価値、理論、実践が相互に関連しあうシステムとなっている。
- 5 経済成長こそが社会開発の前提条件であるとしている。

問題 107 次の記述のうち、ソーシャルワークの形成過程について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 デニスン (Denison, E.) は救貧委員を配置し、医療や職業の斡旋を行うエルバーフェルト制度を制定した。
- 2 アダムス (Addams, J.) は、スコットランドにおいて隣友活動を展開し、科学的・合理的な救済を追求した。
- 3 トインビー (Toynbee, A.) は、セツルメント活動の拠点としてトインビーホールを設立し、貧困者の救済活動と各活動の組織化・適正化を図った。
- 4 慈善組織協会 (COS) は、地区委員会で構成され、地区委員会は友愛訪問員を貧困家庭に派遣し、貧困者の生活改善を図った。
- 5 オザナム (Ozanam, F.) は慈善事業ととらえられていた友愛訪問に、社会学や精神医学の視点を取り入れ、ソーシャルワークの基盤となるケースワークを確立した。

問題 108 次の記述のうち、アドボカシーの種類について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 クラスアドボカシーとは、同じ課題を抱えた特定の集団の代弁や制度の改善・開発を目指す権利擁護活動である。
- 2 ケースアドボカシーとは、自身で権利を主張したり、ニーズ実現のための自己決定等を行う権利擁護活動である。
- 3 ピアアドボカシーとは、同じ地域で暮らす市民が権利の抑圧を受けているほかの市民の権利獲得やニーズの実現のために支援をする権利擁護活動である。
- 4 シチズンアドボカシーとは、弁護士や法的な訓練を受けた人が、法律を利用して権利獲得やニーズの実現を行う権利擁護活動である。
- 5 セルフアドボカシーとは、権利の抑圧を感じている人が、ほかの同様に抑圧を受けている人に代わってその人の権利擁護を行う活動である。

問題 109 次の記述のうち、障害福祉サービス事業所における専門職の業務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 相談支援専門員は、利用者の希望やニーズに応じて目標を設定し、個別支援計画を作成する。
- 2 サービス管理責任者は、利用者の虐待が発生した場合、事業所内で解決を図るように取り組まなければならない。
- 3 生活支援員は、ケアプランをもとに居宅介護計画を作成する。
- 4 サービス管理責任者は、利用者の日常生活やサービス利用の意向を確認し、サービス等利用計画を作成する。
- 5 サービス管理責任者は、職員への助言などサービス提供が円滑に行われるための支援を行う。

問題 110 Bさん（75歳，男性）は数年前に認知症と診断を受け，妻と暮らしていた。昨年妻が亡くなり，近くに住んでいる息子が仕事の休みの日に様子を見に行っていた。Bさんは何とか一人暮らしを続けていたが，隣人に物を盗られたなどと言ったり，外出先から自宅までの帰り道がわからなくなったりするなど，生活に支障が現れ始めた。対応に困った息子は，Bさんを診断した精神科病院に相談に行き，C精神保健福祉士にBさんの今後について不安に思っていることを伝えた。医師からはBさんを検査に連れて来るよう促され，後日息子はBさんを伴い病院を受診した。診察の結果，Bさんは認知症が進行していることが判明し，医師より入院を勧められた。しかし，Bさんは「入院したくない」と言うため，C精神保健福祉士が話を聞くこととなった。

次のうち，C精神保健福祉士の対応として最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 一人暮らしの継続は困難であると考えられるため，Bさんに入院を勧める。
- 2 Bさんの意思を尊重し，今の生活が継続できるよう利用可能な社会資源について説明する。
- 3 Bさんは認知症の進行により意思決定が困難と考えられるため，息子に判断してもらおう。
- 4 Bさんにどのような生活を望んでいるのか，尋ねる。
- 5 息子に，Bさんへのかかわりを増やしてほしいと相談する。

問題 111 精神保健福祉士が行うコミュニティソーシャルワークに関する次の記述

のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士は専門的な見地を中心に地域をアセスメントし、地域のニーズにアプローチすることが求められる。
- 2 精神障害者の支援を行う際は、フォーマルな社会資源の利用を優先に考えることが必要である。
- 3 精神障害者の日常生活を支える社会資源として、地域での仲間づくりやボランティアからの支援も視野に入れる必要がある。
- 4 精神障害者が地域で安心して暮らせるように、利用できる社会資源が不足している場合は、速やかに医療機関への入院ができるようにする。
- 5 精神障害者に関する知識をもつ専門職の意向を優先して、支援を展開していくことが大切である。

問題 112 多職種連携におけるマルチディシプリナリ・モデルに関する次の記述の

うち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 1つの目標に向かって緊密な相互連携を形成し、利用者の複数のニーズに対し多種多様な支援やサービスを展開する。
- 2 チーム全体の意思決定において、各専門職が主体的に関与する。
- 3 緊急性が求められる事態に対して、精神科医師がリーダーとなり、各専門職が各々の専門分野で与えられた役割を果たす。
- 4 チームの目標達成に向けて、各専門職が意図的・計画的に専門分野を超えて必要な役割を果たす。
- 5 モデルの代表的なアプローチの1つとして、包括型地域生活支援プログラム（ACT）がある。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題113から問題115までについて答えなさい。

〔事例〕

D精神保健福祉士の担当する救急病棟にEさん(53歳, 男性)が入院してきた。路上生活をしていたEさんは, 無銭飲食をして通報され, 幻聴なども認められたことから診察を受けた後に措置入院となった。Eさんは若い頃に統合失調症と診断され, 数回の通院をしたものの受診は続いていなかったという。長らく母親と一緒に暮らしながら, 清掃や交通整理などのアルバイトをして暮らしていたが, 10年前に母親を亡くしたことで気持ちが落ち込み, 寂しさを紛らわせるために, ある日飲酒をして酔って職場に行ったことが理由でアルバイトを解雇されたという。家賃が払えなくなったEさんはホームレスとなり, その後はホームレスの社会復帰支援を行っているNPO法人から食事提供などを受けながら生活をしてきたとのことである。Eさんには親族が誰もいないため, 路上生活をしていた住所地で生活保護を受けることとなった。(問題113)

1か月ほど入院治療を続けたEさんは, 退院を考えることができる状態にまで精神症状は回復した。Eさんは再び仕事を探す気持ちが出てきたようだった。まだ具体的ではないものの, D精神保健福祉士はEさんの希望にそって退院支援をするつもりでいた。しかし, 福祉事務所の生活保護担当ケースワーカーは, Eさんには住む場所がないこと, ホームレス状態に戻ることで再び問題を起こすことが考えられるため, Eさんに救護施設への入所を勧めた。これに対しEさんは「そうですね」と言うだけであったが, ある日, 病棟を訪れたD精神保健福祉士に対して, 管理される生活が嫌なので施設には行きたくないこと, アルバイトでもいいのでいずれは仕事をしたいことなどを話した。(問題114)

生活保護担当ケースワーカーとEさんの希望が一致しないまま2か月が経過し, 主治医からは, 周りのサポートがあれば退院は可能であるとの判断があった。D精神保健福祉士は病棟からEさんを3か月以内に退院させるよう迫られている。D精神保健福祉士は退院までの計画を立てるためカンファレンスを開催し, Eさんの今後の生活について話し合うこととした。(問題115)

問題 113 次の記述のうち、この時点までにEさんの同意を得てD精神保健福祉士が行うこととして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害年金受給の可能性を検討するため、以前のアルバイト先に勤務状況を問い合わせる。
- 2 アルコールの自助グループを紹介する。
- 3 生活保護担当ケースワーカーに代わってEさんに保護費の説明を行う。
- 4 NPO法人に連絡をとり、今後の支援に加わってもらうよう依頼する。
- 5 就労継続支援B型事業所を紹介する。

問題 114 次の記述のうち、このときのD精神保健福祉士の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 生活保護担当ケースワーカーの指示に従うよう促す。
- 2 明日からアルバイト探しをすることを提案する。
- 3 地域の居住資源について説明を行う。
- 4 救護施設の見学に誘う。
- 5 多少の我慢は必要であると伝える。

問題 115 次の記述のうち、この段階でD精神保健福祉士が行うこととして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 就労支援を行う事業所にカンファレンスへの参加を依頼する。
- 2 地域相談支援を行っている相談支援事業所にカンファレンスへの参加を依頼する。
- 3 救護施設のある市の生活保護担当者にカンファレンスへの参加を依頼する。
- 4 ホームレス支援団体（NPO法人）の職員にカンファレンスへの参加を依頼する。
- 5 3か月以内に退院できる場所を探すことを病棟に伝える。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題116から問題118までについて答えなさい。

〔事例〕

精神科診療所に勤務するF精神保健福祉士は、うつ病の治療のため通院しているGさん(27歳、女性)の相談援助を担当している。Gさんは現在、生活保護を受給しながら5歳の娘のHさんとアパート暮らしをしている。Gさんは結婚してHさんを出産後、夫のギャンブルによる借金が膨らみ、生活困窮に陥ったことから、精神的にも不安定になりうつ病を発症した。その後、それらのことが原因で、1年前に離婚した。Gさんには頼ることができる身内もほとんどおらず、F精神保健福祉士はGさんの生活問題などについて継続的に相談に応じていた。

ある時からGさんは育児に悩むようになり、うつ病の症状が悪化した。そのため、家では何もする気が起きず子育てもままならない状況が続いた。そのようななか定期受診の時にF精神保健福祉士はGさんと面接を実施した。Gさんは、離婚後ずっと一人でHさんの面倒を見てきたこと、自分のことは一切構わず、娘のことだけを考えてきたが、もう限界であると涙ながらに苦悩を語った。(問題116)

面接後もGさんの症状の改善は見られず、ついには定期受診の日にも、連絡なく来所しなかった。心配になったF精神保健福祉士は主治医に相談し、担当看護師と一緒に自宅を訪問した。Gさんはうつろな表情で対応し、アパートの部屋はごみが散乱し、食事の準備もできていない状況であった。Hさんは自室でうずくまっており、ネグレクトが疑われる状況が確認されたため、F精神保健福祉士は関係機関と連携し、一時的にHさんを保護し、Gさんが治療に専念できる環境を整えた。(問題117)

半年後には再びGさんがHさんと一緒に暮らせる状況となったことから、F精神保健福祉士は、今後の支援体制を検討するためにケア会議を開催した。そのなかで、Gさんからは「できる限り子どものために家事を頑張りたいが、気持ちが沈んでしまうことも少なくないので、時々サポートしてほしい」「定期受診だけでなく、病気との付き合い方や健康を保つために直接相談したいが、体調によって外出が難しい日もある」といった希望や不安が聴かれた。(問題118)

問題 116 次の記述のうち、この時点におけるF精神保健福祉士のGさんに対する言葉がけとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「Gさんなら、きっとこれから素敵な人との出会いがありますよ」
- 2 「これまでもお一人で娘さんを支えてこられたのですから、これからも大丈夫ですよ」
- 3 「そのような弱気な気持ちだと、娘さんも不安になってしまいますよ」
- 4 「ずっと娘さんを支えてこられたのですね。本当に大変でしたね」
- 5 「しっかり療養すれば、うつ病は治りますから、心配しないでくださいね」

問題 117 次のうち、F精神保健福祉士が連携した関係機関として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 福祉事務所
- 2 地域包括支援センター
- 3 児童養護施設
- 4 市町村障害者虐待防止センター
- 5 児童相談所

問題 118 次のうち、F精神保健福祉士がGさんに提案した社会資源として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 就労移行支援
- 2 精神科訪問看護
- 3 短期入所
- 4 共同生活援助
- 5 居宅介護

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 119 精神障害者支援の理念や方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 エンパワメントとストレングスの理念に共通性はない。
- 2 負のノーマライゼーションとは、社会の偏見や差別をなくしていくことで障害のある人が普通の地域生活を送れるようにすることを意味している。
- 3 レジリエンスの強さに、障害の程度や年齢による差はないとされている。
- 4 レジリエンスモデルは、精神科領域における取り組みを、患者自身に備わる復元力を引き出す方向へと変化させる理念として期待されている。
- 5 レジリエンスを高めるものとして、ウォーリン夫妻により、自尊感情や自己決定力があげられている。

問題 120 「精神保健福祉法」と家族に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族は、精神障害者の自傷他害を防止・監督しなければならない。
- 2 家族は、精神障害者の財産を守り、管理しなければならない。
- 3 家族は、主治医に協力しなければならない。
- 4 「精神保健福祉法」における「家族等」とは、配偶者、親権を行う者、扶養義務者、後見人及び保佐人又は補助人をいう。
- 5 家族等のうちいずれかの者がおり、その同意が得られないときは、市町村長同意による医療保護入院を行うことはできない。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 121 ストレングスモデルに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ストレングスモデルは、1980年代にジャーメイン (Germain, C.) とギッターマン (Gitterman, A.) によって体系化されたモデルである。
- 2 ストレングスモデルは、カンザス大学において精神障害者のためのケースマネジメントの一類型として開発された。
- 3 ストレングスモデルは、クライアントのパーソナリティーの発達を強化することを目標とするモデルである。
- 4 ストレングスモデルの原則では、支援過程の監督者は支援者であり、仕事の主要な場所は医療機関と位置づけている。
- 5 ストレングスモデルにおいては、支援者のもつ資質、経験知、コンピテンシー、社会資源などをストレングスとして活用し支援する。

問題 122 心理教育・家族心理教育に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 集団で行う心理教育の効果に、主体的に服薬行動をとるアドヒアランスの向上は含まれない。
- 2 IMRはアメリカで開発された科学的根拠に基づくプログラムであり、当事者主体で行うピアサポートプログラムである。
- 3 家族心理教育は、「認知 (思考・イメージ)」「行動」「気分・感情」「身体」の4点の基本構造からなる。
- 4 専門家による家族心理教育に加え、家族による家族教育がある。
- 5 CRAFTは、アルコール依存や薬物依存の問題をもつ当事者に対して、依存性物質を断るコミュニケーションスキルの向上を目指すプログラムである。

問題 123 職業リハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リワーク支援では、うつ病の人に向けた自動思考の獲得が行われる。
- 2 うつ病のリワーク支援では、回復期の段階から医療機関と企業、本人・家族が連携して取り組むことが重要である。
- 3 援助付き雇用モデルは、就労支援の知的障害モデルの1つである。
- 4 就労支援の評価においては量的視点に加え、ディーセント・ワークの視点が大切である。
- 5 職業リハビリテーションは、社会リハビリテーションの一環として行われる。

問題 124 マッピング技法の1つであるジェノグラムに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生態学と一般システム理論の知見を取り込んだ技法である。
- 2 中心人物にとって関係性が強い人物をIPという。
- 3 ハートマン（Hartman, A.）によって開発されたものである。
- 4 三世代以上の拡大家族内で繰り返されてきているような問題の連鎖性を明らかにしていくのに有効な手法である。
- 5 グループメンバー間の関係パターンについて、相互作用を示す線や円などの記号を用いて図式化したものである。

問題 125 精神科訪問看護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神科訪問看護・指導の利用にあたっては、市区町村による障害支援区分認定を経ることで、看護師、精神保健福祉士等が患家を訪問することができる。
- 2 精神科訪問看護は、患者本人の意向を中心とした支援を展開するため、同居家族からの相談には応じることができない。
- 3 精神科訪問看護の目的は、精神症状の再燃、悪化の防止であるため、服薬状況の把握が支援の中心となる。
- 4 精神科訪問看護は、生活の場に訪問するため、患者本人との関係づくりや生活スタイルを尊重する姿勢が求められる。
- 5 精神科訪問看護における精神保健福祉士の役割は、看護師によるアセスメントをもとに、医療的視点から支援計画を作成することである。

問題 126 精神保健福祉センターに勤務する J 精神保健福祉士は、2 歳の子どもを連れて来所した K さん（20代，女性）と初回面談を行った。夫の L さんからの暴力に悩んでいるという。「夫は，うつ状態の診断を受けて 1 年ほど仕事を休んでいました。1 か月ほど前に夫婦で話し合っ夫は会社を退職したんです。自宅にいた時間が増えたその頃から，この子がお飯で遊んだり，おもちゃを散らかすと夫が怒鳴りだすようになり，私がこの子をかばうと私に暴力を振るうようになったんです」と K さんは泣きながら話した。さらに K さんは「夫の怒鳴り声や暴力におびえながら一緒にいるのは落ち着かないんです。でも，以前は優しい夫でしたし，今のところ子どもに暴力は振るっていないので，私が我慢すればいいことなのかもしれません」と話した。

次の記述のうち，この状況での J 精神保健福祉士の対応として，適切なものを 2 つ選びなさい。

- 1 早急に夫の L さんと面談を行うために自宅訪問の提案をする。
- 2 子どもの前での暴力行為は，児童への心理的虐待に該当するため，保護命令を申し立てることができるなど情報提供を行う。
- 3 今後，K さんへの暴力行為があった場合には，その場から逃げることも大切であることを伝える。
- 4 「L さんがあなたに暴力を振るうほかの原因に思い当たることはないですか」と暴力を誘発するトリガー（引き金）を共に探す。
- 5 「また L さんに仕事が見つかって，以前のような優しい L さんに戻ってほしいのですね」と変化への希望を確認する。

問題 127 グループワークの展開過程に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 開始期 —— 契約を交わす
- 2 作業期 —— 波長合わせを行う
- 3 終結期 —— アイスブレイク等を実施する
- 4 準備期 —— ワーカーとメンバーの体面的関係を深める
- 5 開始期 —— 個々のメンバーの課題などのアセスメントを行う

問題 128 Aさん（75歳、女性）は、息子のBさん（47歳）と二人暮らしである。

Bさんは25歳で統合失調症を発症した。当時は医療機関を受診しており、30歳時から医療保護入院で2年間入院していた。しかしその後は服薬はするものの15年以上自宅にひきこもり、その世話はAさんが一人で行ってきた。Aさんは、自身の生活に楽しみもなく、また自分の亡き後のBさんのことなどが気になり、ふさぎこむことが多くなっていた。民生委員の声かけで市社会福祉協議会の総合相談へ行き、C精神保健福祉士に相談した。

次の記述のうち、この場面でC精神保健福祉士に求められるAさんに対する支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Aさんの不安な気持ちを和らげるため、精神科への受診を勧める。
- 2 Aさんがゆっくりできる時間を取って気持ちが落ち着くよう、Bさんを入院させるように勧める。
- 3 AさんとBさんが一緒に家族療法を受けることを勧める。
- 4 Aさんに介護保険での訪問サービスを受けるように勧める。
- 5 Aさん自身のリカバリー支援が行われるような活動への参加を勧める。

問題 129 コンサルテーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 専門職だけでなく、ボランティアや自助グループを含む多様な資源とのネットワークのなかで、事例について互いに行われる自由な助言や支援を指す。
- 2 コンサルテーションの実施形態には、研修型、システム介入型のほか、カウンセリング型がある。
- 3 問題解決モデルは、クライアントの問題解決のために、コンサルタントがコンサルティを通してクライアントへ間接的に助言をする行動コンサルテーションの1つである。
- 4 社会・対人影響モデルは、コンサルティの問題解決過程よりも、コンサルタントのコミュニケーションの取り方やそれによる影響など関与方法を重視する行動コンサルテーションの1つである。
- 5 コミュニティメンタルヘルス活動において、クライアントを支援する援助者への支援の有効性に気づいたビアーズ (Beers, C. W.) が、メンタルヘルスモデルとして方法を確立した。

問題 130 次のうち、アルコール依存症者の回復施設における当事者スタッフの役割のなかで、同じ疾患や障害のある者同士が体験を語り合い、支え合うことを意味する語として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ヘルパーセラピー原則
- 2 体験的知識
- 3 エンパワメント
- 4 ソーシャルインクルージョン
- 5 ピアサポート

問題 131 地域アセスメント及びその方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域アセスメントでは、地域の弱さや課題を中心に地域特性を理解し、地域力を評価する。
- 2 地域アセスメントで把握する項目には、国勢調査や世論調査などの統計資料は含まれない。
- 3 SWOT分析とは、内部環境と外部環境をクロス分析し、それをトップダウンの形で最終的な成果指標を設定する方法である。
- 4 ベンチマーク法とは、アンケート調査によって、専門家等の意見を集約・収斂^{しゅうれん}し、意見の明確化や各種の福祉サービスの機能・範囲を明らかにする方法のことである。
- 5 バランススコアカード（BSC）とは、「顧客」「仕事」「財務」「人材」という4つの視点の相対する関係から数値目標を設定し、実績を評価する方法である。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題1)

次の事例を読んで、問題132から問題134までについて答えなさい。

〔事例〕

Dさん(26歳, 女性)は, 勤務先の食品会社で人間関係がうまくいかず, 不眠が続いて仕事に行けなくなったことから心療内科を受診した。Dさんはうつ病を患っている母親(46歳)と二人暮らしであり, 家のこと全般はDさんが行っている。Dさんの母親は夫のDV被害から逃れるためにDさんが物心つく前に離婚しており, 女手一つでDさんを育ててきたが, 13年ほど前からうつ病を患い, 現在はDさんに面倒をみてもらっている状態である。E精神保健福祉士がDさんと初回面接を行ったところ, Dさんは, 「母が家にいて私に文句ばかり言ってきます」「一体, どう対応したらいいのでしょうか?」「やっぱり, 入院してもらったほうがいいでしょうか?」と母親の状態の悪さや母親とのやり取りの様々な苦勞についてしきりに話し始めた。(問題132)

その後Dさんは休職し, 心療内科でのリワークプログラムを受けて職場復帰を目指すことになった。約1か月後, Dさんの復職準備も進んだことから, 復職前の試し出勤を行い, E精神保健福祉士がDさんと面接をした。Dさんに「会社のほうで働きやすい部署に異動させてくれたので, 職場の人達とはうまくやれそうです。ただ, 出がけに母親から『もう行くの? 家にいたほうがいいんじゃない?』と言われると出かけづらいです。うまく言葉を返して気分よく出かけたいたのですが…」と相談され, E精神保健福祉士はプログラムへの参加を提案した。(問題133)

復職後Dさんは順調に回復し, Dさんの母親も状態がよくなり, 家事も行えるようになっていった。一方で, 元気になってきた母親からいろいろと言われることが増えてきたため, Dさんは, 「母との関係でイライラして鬱憤^{うっぷん}が溜まっている。職場の人や友人には話せないし, なんとなく孤立感を感じる。何か利用できるものはありませんか?」と, E精神保健福祉士に相談した。(問題134)

問題 132 次の記述のうち、この時点におけるE精神保健福祉士のDさんへの働きかけとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 母親のことでなく、Dさん自身のことを話すように促す。
- 2 母親に適した医療機関の情報を提供する。
- 3 問題解決技法を用いて、Dさんの母親への対処方法について一緒に考える。
- 4 これまでの母親に対するかかわりの苦労や工夫について尋ねる。
- 5 母親と一緒に精神科を受診することを勧める。

問題 133 次のうち、この時点でE精神保健福祉士が考えたプログラムとして最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ARP
- 2 SST
- 3 WRAP
- 4 IPS
- 5 IMR

問題 134 次のうち、この時点でE精神保健福祉士がDさんが利用できると考えられる社会資源として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自立生活援助
- 2 職場適応援助者（ジョブコーチ）
- 3 家族セルフヘルプグループ
- 4 包括型地域生活支援プログラム（ACT）
- 5 居宅介護

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題135から問題137までについて答えなさい。

〔事 例〕

Fさん(35歳, 男性)は, 大学時代にストレスを抱え, 「ゼミの教授と同級生が自分の悪口を言いふらしている」と周囲に訴えるようになり, 19歳のときに精神科病院を受診した。統合失調症の診断を受け, 3か月間の入院治療の後, 自宅へ退院した。以後, 病状を大きく崩すことなく過ごしているが, 大学は中退し, 自宅で一日中インターネットの将棋ゲームなどをして過ごしている。両親は, ストレスのない生活をしていればいつか病気は治ると考えており, 無理をさせないためにもFさんの生活に対して何も言わないでいる。

ある通院の日, Fさんは外来の待合室で相談室のパンフレットを見つけ, 社会復帰の相談ができることを知った。そして外来後, 緊張しながら相談室を訪れ, G精神保健福祉士と初めて面接することになった。(問題135)

面接でFさんは「両親がいつまで薬を飲むのかと聞いてきます。ほかの患者さんはどうしているのでしょうか。ずっと家にいますが, このままでいいのか不安です。話せる人がいるといいのですが…」と吐露した。G精神保健福祉士はFさんの話を聞いたうえで, 「病院のデイケアには, Fさんと同じような悩みを抱えている当事者のグループ活動があります。近隣のU地域活動支援センターで働く当事者スタッフが来て司会をしているので, とても話しやすいと思います。一度見学してみませんか」と提案した。Fさんは迷っていたが, 自分と同じ病気を経験している当事者スタッフの話を聞いてみたいと思い, 見学することにした。見学の日, Fさんは当事者スタッフやグループメンバーによる回復の過程の話を熱心に聞き入っていた。(問題136)

Fさんがデイケアに通い始めてしばらく経った頃, Fさんの両親が相談室に来室し, 「無理をさせないでほしい。病気が悪化したらどうするのか」と不安を訴えにきた。G精神保健福祉士は両親の話に丁寧に耳を傾け対応した。(問題137)

その後, Fさんは, デイケアとU地域活動支援センターを利用し, 就労への準備を始めている。

問題 135 次の記述のうち、この時点における**G**精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 インテーク用紙の質問項目に沿って、**F**さんの生活歴や治療歴などを聞き取る。
- 2 社会復帰支援のためにLASMI（精神障害者社会生活評価尺度）を用いて、**F**さんの機能評価を行う。
- 3 精神保健福祉士に相談することについて主治医の許可を得ているかを確認する。
- 4 多面的に情報を得るため、後日両親とともに来室するよう説明する。
- 5 **F**さんが相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、共感的態度で話を聞く。

問題 136 次の記述のうち、この場面で**G**精神保健福祉士が**F**さんに当事者のグループ活動を勧めた理由として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 **F**さんにも当事者スタッフを目指してもらうため。
- 2 無理をせず現状維持をしてもらうため。
- 3 薬を飲む必要がないことを理解してもらうため。
- 4 回復に向けた希望を感じてもらうため。
- 5 専門職主導で社会復帰を目指すことが回復の近道であることを理解してもらうため。

問題 137 次の記述のうち、この時点における**G**精神保健福祉士の対応として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 両親のこれまでの苦労や**F**さんに対する思いを尋ねる。
- 2 統合失調症の発症は、家族の影響によるものであることを説明する。
- 3 デイケアで行っている家族教室の情報を提供する。
- 4 **F**さんの病気の悪化を心配していることを伝えるよう両親に話す。
- 5 **F**さんの病気が悪化しないように対処するのは家族の役割であると説明する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題138から問題140までについて答えなさい。

〔事例〕

Hさん(15歳, 男性)は, 小学校では成績優秀であり, 両親の期待に応え, 中高一貫校に入学した。しかし, 中学入学後は勉強についていけず, 次第に学習意欲が低下し, 学校も休みがちとなっていった。中学2年生の夏休み明けから完全に昼夜逆転の生活となり, 夜中に起きてスマートフォンでオンラインゲームをし, 不登校となっている。両親が心配し, 本人のスマートフォンを取り上げ, 契約を解除すると言うと, 自室で暴れ, 壁を殴って穴をあけ, 「俺が死んでもいいんだな」と言う。そのため, 親もスマートフォンを取り上げることをあきらめている。両親から担任のJ先生に相談があり, J先生からスクールソーシャルワーカー(K精神保健福祉士)に面談に同席してほしいとの依頼があった。両親からの同意も取れたため面談に同席した。(問題138)

両親は, 本人の状態を心配するとともに, 高校に進学できるかということ強く心配している。J先生は「本校は進学校であるため, 現在の状態で高校に進学しても勉強についていけないと思う」と両親に説明した。Hさんが高校に進学することを希望している両親との話し合いは平行線をたどり, 険悪な雰囲気となった。(問題139)

この中学校には, Hさんと同様にインターネットゲーム障害が疑われる学生が, わかっているだけでも1学年に2名程度いる。しかし, 学校としては, ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)による生徒間のトラブルを把握しているものの, 授業や連絡手段としてスマートフォンを活用しているため, 禁止にはしていない。J先生を含め教員の多くは, この件を個人や家庭, あるいは社会的な問題としてとらえている。(問題140)

問題 138 次の記述のうち、この時点でK精神保健福祉士が行う支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 両親にインターネットゲーム障害の専門治療を行っている医療機関への受診を勧める。
- 2 Hさんと一緒に最寄りの自助グループに行ってみよう、両親に勧める。
- 3 両親にスマートフォンの契約を解除することを勧める。
- 4 J先生にHさんを自宅に迎えに行くように助言する。
- 5 K精神保健福祉士がHさんに会いたいことを、両親を介して本人に伝える。

問題 139 次の記述のうち、この面談でのHさんの両親とJ先生に対するK精神保健福祉士の言葉がけとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「目の前の進学ではなく、Hさんの将来について考えましょう」
- 2 「大学に進学するための方法を一緒に考えましょう」
- 3 「ご両親もJ先生も、Hさんの将来を心配して悩んでいるのですよね」
- 4 「Hさんのことを考えれば、転校も1つの選択肢だと思います」
- 5 「Hさんはインターネットゲーム障害という病気です。病気なので治療に専念しましょう」

問題 140 次の記述のうち、この時点でK精神保健福祉士が行う支援として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 学校にスマートフォンの所持禁止を提案する。
- 2 教員と連携し、インターネットゲーム障害の予防のために学校でできる活動を考える。
- 3 学内に不登校の生徒によるインターネットゲーム障害の自助グループを作る。
- 4 在校生の家族を対象にインターネットゲーム障害に関する講座を行う。
- 5 保健所にインターネットゲーム障害の人を対象としたデイケアの設置を依頼する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題141から問題143までについて答えなさい。

〔事 例〕

A精神保健福祉士は地域包括支援センターに勤務して5年目になる。ある日A精神保健福祉士は、N地区の住民から電話で相談を受けた。近隣のBさん(78歳、女性)宅からBさんの夫の怒声が頻繁に聞こえたり、Bさんが部屋着のまま外をうろろしている様子を見ることがあり、心配しているとのことだった。(問題141)

虐待の疑いもあることからA精神保健福祉士は状況を確認するため、早速Bさん宅を訪問した。

Bさんは夫と二人暮らし、老齢年金で生活をしている。夫婦関係がよく、仲良く外出する姿が目撃されている。近くに息子夫婦が住んでおり、Bさん夫婦と息子夫婦との関係は良好で、たびたび行き来をしているようだった。元来Bさんはおとなしい性格の女性だった。しかし、1か月ほど前から夫に対して、通帳や印鑑を盗られたなど被害的になり大声でどなることや、家事をせず半日ほど台所でぼんやりとしていること、部屋着のまま家を飛び出して一日中所在不明になったことがわかった。夫はこのようなBさんの様子の変化に戸惑い、家事を怠けているととらえ、それが怒声や暴力になっているとわかった。(問題142)

A精神保健福祉士は夫と二人で話すことにした。すると、夫はBさんを何とかしたいという思いを吐露した。認知症の疑いについて丁寧に説明すると、夫はきちんと診断を受けたほうがよいと話した。息子夫婦からの協力を待って、Bさんの同意を得た上で認知症疾患医療センターに相談に行った。Bさんは認知症と診断され、本人と家族へそれぞれ説明がなされた。その後、本人の通院に付き添って家族も認知症疾患医療センターで相談を継続した。少し時間をおいて、落ち着きを取り戻したBさんからA精神保健福祉士に相談があった。「今後の自身の認知症の進行を考えると、自分でできることはしていきたいし、夫も好きなようにしていいと言っている」とのこと。また、本人から身近な金銭管理については自分で行いたいと希望があった。(問題143)

問題 141 次のうち、A精神保健福祉士が電話相談を受けて優先的に対応すべきこととして**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 緊急時には発見者である住民がまずかけつけて様子を見るように依頼する。
- 2 住民のプライバシー保護の立場から、住民についての基本情報を聞くことは避け、Bさんについての内容にしぼって話を聞く。
- 3 Bさんの生命または身体に重大な危機が生じているかどうかの安全確認を行う。
- 4 Bさん家族の構成やBさん夫婦が今までどのような状況の中で暮らしてきたのか、事情を丁寧に聞く。
- 5 虐待に気づいたキーパーソンとして継続的な情報提供を依頼する。

問題 142 次のうち、A精神保健福祉士のBさん夫婦へのかかわりとして**適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 夫の暴力を虐待ととらえ、行政と連携し当面見守りを続ける。
- 2 夫の行為は暴力であるため、やめるように指導する。
- 3 夫の怒声や暴力へ至る気持ちに共感を示す。
- 4 Bさんは病気と思われるので、すぐに入院させることを提案する。
- 5 息子と協力し、誰かがBさんに付き添っているように勧める。

問題 143 次のうち、A精神保健福祉士がこの時点でBさんに勧める社会資源として**最も適切なものを1つ**選びなさい。

- 1 任意入院
- 2 就労継続支援B型
- 3 認知症対応型共同生活介護
- 4 成年後見制度
- 5 訪問介護

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 144 医療保護入院に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉センター長に対し定期病状報告が行われる。
- 2 医療保護入院者を入院させている精神科病院の管理者は、精神保健福祉相談員を選任しなければならない。
- 3 入院に同意する家族等には保護義務者が含まれる。
- 4 精神科病院管理者により精神障害者地域移行・地域定着推進協議会が開催される。
- 5 医療保護入院者の退院届は退院後10日間以内に提出されなければならない。

問題 145 精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「医療観察法」による指定入院医療機関の入院患者に対し、退院の可否を審判する。
- 2 精神障害者の障害支援区分の認定を行う。
- 3 定期病状報告で届出のあった患者の入院の必要性を審査する。
- 4 入院患者の家族等からの退院請求は審査対象外とする。
- 5 精神医療審査会の委員は、厚生労働大臣により任命される。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 146 自立支援医療（精神通院医療）に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 通院医療費公費負担制度は、障害者自立支援法（現・「障害者総合支援法」）制定により自立支援医療制度に移行した。
- 2 自立支援医療（精神通院医療）の対象は、障害者基本法に規定される障害者で、通院による精神医療を継続的に要する者である。
- 3 症状がほとんど消失している患者であっても、障害の程度が軽減している状態を維持し、または障害の再発を予防するために入院によらない治療を続ける必要がある場合は、自立支援医療（精神通院医療）の対象となる。
- 4 自立支援医療（精神通院医療）の支給認定を受けるには、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けていることが要件となる。
- 5 精神科デイケアは、自立支援医療（精神通院医療）の支給範囲の対象外である。

（注） 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 147 地域包括支援センターに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域包括支援センターには、介護保険制度のサービスの代理認定申請は認められていない。
- 2 地域包括支援センター設置の責任主体は都道府県である。
- 3 市町村または地域包括支援センターは、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務のために、地域ケア会議を設置しなければならない。
- 4 地域包括支援センターの業務には、介護予防ケアマネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント支援、総合相談支援、権利擁護がある。
- 5 要介護認定の結果が自立（非該当）であった介護保険の被保険者は、介護保険制度のサービスを利用できないため地域包括支援センターに相談することはできない。

問題 148 次のうち、生活保護の生活扶助として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 光熱費
- 2 家賃
- 3 義務教育の給食費
- 4 医療機関の受診にかかる費用
- 5 介護保険の住宅改修にかかる自己負担の費用

問題 149 精神保健福祉センターの業務に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自立支援医療（精神通院医療）の申請窓口業務を行う。
- 2 地域生活を送る通院患者の訪問指導を実施する。
- 3 精神障害者保健福祉手帳の判定を行う。
- 4 地域生活支援事業を行う。
- 5 日常生活自立支援事業を行う。

問題 150 更生保護の担い手に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保護観察官は、犯罪予防に関する活動にはかかわらない。
- 2 更生保護女性会は「ともだち活動」を行っている。
- 3 保護司の任期は、3年である。
- 4 保護司は、非常勤の国家公務員である。
- 5 協力雇用主が保護観察所に登録する求人要件は、正規雇用に限られる。

問題 151 次のうち、保護観察所の業務の内容及び役割として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 犯罪予防のための世論への啓発
- 2 個別恩赦の決定
- 3 地域生活定着支援センターの実施主体
- 4 仮釈放の許可決定
- 5 医療観察法における鑑定入院の命令

問題 152 P市では近年、精神障害者が一般就労に至るケースが増え、協議会でも就職後の定着が課題としてあがっていた。そこで、職場定着にどのような要因が関連しているのかを把握するため、協議会が就労支援を行っている機関や障害福祉サービス事業所に調査協力を呼びかけ、就職後6か月以上定着している精神障害者のうち調査への承諾が得られた100人に対して質問紙調査を実施した。質問紙は、5件法で作成した。この調査により、職場定着と関連性のある要因が明らかになった。

次のうち、この調査で使われた社会調査の分析手法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 クロス集計
- 2 エスノグラフィー
- 3 KJ法
- 4 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (M-GTA)
- 5 アクションリサーチ

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題153から問題155までについて答えなさい。

〔事例〕

Cさん(30代, 男性)は, 大学1年生の頃周囲からの嫌がらせを訴え, 両親に連れられ, 初めて精神科クリニックを受診し統合失調症の診断を受けた。大学は中退し, アルバイトを始めたが人間関係がうまくいかず長続きしなかった。精神科クリニックへの通院は続けていたが, 30歳頃より幻聴や被害妄想が悪化し, 突然怒鳴るといった行動が出現するようになった。ある日, 路上で通りがかりの男性に突然殴りかかり全治2週間のけがを負わせた。Cさんは, 「被害者に『死ぬ』と悪口を言われたので腹が立って殴った」と供述していた。簡易鑑定が実施され, 幻覚妄想状態で責任能力無しと判断され不起訴になったため, 検察官が「医療観察法」の申立てを行い, 裁判所の審判の結果, 入院によらない医療を受けさせる決定となった。通院処遇の開始にあたって, 保護観察所のD社会復帰調整官によって, Cさんの希望を確認した上で, 就労を中心とした計画が作成された。(問題153)

まずは, 就労準備としてパソコン入力作業や対人関係スキルの練習のためV就労移行支援事業所(以下, V事業所)に通うこととなった。通院処遇は順調に進み, 2年が経過した頃, Cさんは一般企業のパソコン入力作業の求人を知り, D社会復帰調整官に相談し, ケア会議で検討することになった。ケア会議のなかでCさんは, V事業所へは定期的に通所できていたが, 以前, アルバイトが続かなかったため, 不安があると話した。このため, V事業所のE精神保健福祉士より, 就労移行支援事業等を利用して一般就労し, 6か月以上雇用された人が就労に伴う生活面の課題について相談ができる障害福祉サービスについて説明がなされた。(問題154)

また同時にCさんの状況について, 病状の安定と継続的な治療及び地域支援体制の確立ができていることが確認された。そのため, 一般就労を目指すにあたり「医療観察法」の処遇の終了の申立てについて協議が行われることとなった。(問題155)

(注) 「医療観察法」とは, 「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

問題 153 次のうち、この時点で作成された計画として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 サービス等利用計画
- 2 個別支援計画
- 3 生活環境調整計画
- 4 処遇実施計画
- 5 個別治療計画

問題 154 次のうち、E精神保健福祉士が説明した障害福祉サービスとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自立訓練（生活訓練）
- 2 就労継続支援
- 3 共同生活援助
- 4 自立生活援助
- 5 就労定着支援

問題 155 Cさんのケア会議において協議された処遇の終了の申立てに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会復帰調整官は、処遇の終了の申立てができる。
- 2 通院前期では、処遇の終了の申立てができない。
- 3 指定通院医療機関の管理者は、処遇の終了の申立てができる。
- 4 Cさんは、処遇の終了の申立てができない。
- 5 Cさんの両親は、処遇の終了の申立てができる。

精神障害者の生活支援システム

問題 156 法律の対象となる精神障害者の規定に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 障害者基本法において、「精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」という規定が含まれている。
- 2 「精神保健福祉法」において、「精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」という規定が含まれている。
- 3 「障害者総合支援法」において、「精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」という規定が含まれている。
- 4 「障害者雇用促進法」において、「精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」という規定が含まれている。
- 5 「障害者差別解消法」において、「精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者」という規定が含まれている。

(注) 1 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

2 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

3 「障害者雇用促進法」とは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」のことである。

4 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

問題 157 精神障害者の生活支援モデルに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 生活支援活動（生活モデル）に基づくかわりは、規則正しい生活へと援助することである。
- 2 クラブハウスモデルの起源は、アルコール依存症者の自助グループの活動にある。
- 3 統合的生活モデルに基づく実践には、精神障害者とともに新しいサービスを生み出していくことが含まれる。
- 4 生活支援活動（生活モデル）では、生活者を主体として、生活者が自己決定できるように支援を行う。
- 5 WRAPとは、レジリエンスの理念に基づくセルフケア・プログラムである。

問題 158 Fさん（20代，男性）は，大学在学中に統合失調症を発症した。W就労移行支援事業所を経て，現在，Y社にて障害者雇用枠で働いている。就職して2か月半が経った頃，FさんがW就労移行支援事業所のG精神保健福祉士に「会社で社長とうまくいっていない」と相談してきたので，事情をよく聞いた。FさんはY社の社長に徐々に忙しい作業ラインに入るよう言われ，結果，作業についていけず，毎日のように社長に怒鳴られているとのことだった。そこで，G精神保健福祉士がFさんの承諾を得てY社の社長と話をしたところ，Fさんへの対応を改めることに同意してくれた。しかし，数日後，再び相談に来たFさんによると，社長のFさんへの態度がさらに悪化しているという。

次の記述のうち，G精神保健福祉士の対応として，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 社長の言動は使用者による障害者虐待であるとFさんに説明する。
- 2 すぐに市町村障害者虐待防止センターに届け出ることをFさんに勧める。
- 3 社長の態度への対処法を学ぶために社会生活技能訓練（SST）を行うことをFさんに提案する。
- 4 地域障害者職業センターの職場適応援助者（ジョブコーチ）を利用することをFさんに提案する。
- 5 公共職業安定所と協力して対応することをFさんと検討する。

問題 159 次の記述のうち、就労支援に関する機関と専門職について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 就労移行支援事業所の障害者職業カウンセラーは、職場適応援助者の養成や関係機関へ技術的事項についての助言などを行う。
- 2 就労継続支援A型事業所の精神障害者雇用トータルサポーターは、事業所に対して精神障害者等の雇用に関する意識啓発や理解促進を行う。
- 3 就労継続支援B型事業所のサービス管理責任者は、個別支援計画の作成など支援全体の管理を行う。
- 4 公共職業安定所の職場適応援助者（ジョブコーチ）は、職場に出向き、障害特性を踏まえた直接的で専門的な支援を行い、障害者の職場適応、定着を図る。
- 5 地域障害者職業センターの就労支援員は、個別支援計画に沿ったプログラムなど準備訓練を行う。

問題 160 次の記述のうち、精神障害者に対する市町村の精神保健福祉業務について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 基幹相談支援センターは、市町村による直接運営のみが認められており委託はできない。
- 2 市町村は、自立支援医療（精神通院医療）の申請受理は行わない。
- 3 市町村は、精神科救急医療体制整備が努力義務とされている。
- 4 医療保護入院が必要な精神障害者に家族等がない場合は、居住地の市町村長が退院請求の権利者となる。
- 5 市町村障害福祉計画では、地域生活支援事業の種類ごとの実施を定めることは努力義務とされる。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題161から問題163までについて答えなさい。

〔事例〕

Hさん（女性，40代）は，統合失調症で5年間入院している。Hさんのいる病棟では，地域移行支援事業者が定期的に退院に向けたプログラムを実施している。そのプログラムでは，退院に向け意欲を高めるための話し合いや情報提供などが行われている。この情報提供では，当事者の人たちが参加し，自らの退院経験や地域での生活の様子や工夫について話を聞く機会もある。Hさんは，このプログラムに何度か参加することで，退院への意欲や漠然とした地域生活への希望を具体化していった。（問題161）

Hさんは地域移行支援事業による退院支援により，アパートで单身生活を送ることとなった。Hさんは生活保護を受給し，自宅では2週間に1回，精神科訪問看護を利用して生活している。また，週に3日は通院先の病院のデイケアへ通っている。退院当初は生活や様々なことで不安が強まることも想定されるため，緊急時に夜間や休日でも相談したいという希望がHさんから出された。そこで，U事業を活用することとした。（問題162）

Hさんは退院して9か月が経過し，U事業のJ精神保健福祉士に現在の生活や人との関係のもち方，将来の希望などを相談したいと連絡してきた。J精神保健福祉士はHさんの話をよく聞いたところ，「家事や金銭管理は慣れてきたけど，单身生活の大変さについて話し合える仲間や友人が欲しい。将来は結婚したいけど出会いの場がない。デイケア以外に活動ができる場が欲しい。また，誰かの役に立ちたいから働きたい」などが語られた。そこで，J精神保健福祉士はHさんの料理が得意であるという強みを活かして，近隣の施設で高齢者の昼食作りボランティアがあるという情報提供と，自主製品作りと販売，レクリエーションや当事者の人たち同士の相談支援やグループ活動といった様々な活動が行われているV事業所の情報提供を行った。（問題163）

問題 161 次のうち、Hさんが参考にした支援について適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉ボランティア
- 2 ピアサポーター
- 3 AA（アルコールリクス・アノニマス）
- 4 認知症サポーター
- 5 民生委員

問題 162 Hさんが利用したU事業として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 共同生活援助
- 2 行動援護
- 3 地域定着支援
- 4 居宅介護
- 5 日常生活自立支援事業

問題 163 次のうち、J精神保健福祉士が情報提供を行ったV事業所について、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 地域活動支援センター
- 2 就労継続支援B型事業所
- 3 クラブハウス
- 4 就労移行支援事業所
- 5 地域生活定着支援センター

これ以降はアンケートの質問紙です。

試験中は開かないでください。

試験終了後、試験官の指示に従って回答してください。

〈実施するアンケート〉

A. 模擬試験難易度アンケート

あなたが受験した科目に関して、それぞれあなたの印象に最も近い評価の数字をマークシートに従って塗りつぶしてください。なお、受験していない科目は、空欄で構いません。

本アンケートの回答内容は、12月上旬に郵送するあなたの成績表に記載されます。本アンケートに回答いただくことで、科目毎にあなたの解いたときの難易度の印象と、あなたの成績結果の比較をすることができます。問題の難易度の感触と得点の実態を把握して、国家試験に向けた試験対策にお役立てください。

なお、本アンケートへの回答は、任意です。回答の有無あるいは内容によって、あなたに不利益が生じることはありません。本アンケートへの回答をもって、趣旨への同意を得られたものとさせていただきます。

B. 進路意向（就労状況）アンケート

【アンケートの目的およびアンケート実施主体】

本アンケートは、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が、養成校在校生及び既卒者の進路意向及び就労の状況を把握し、今後の福祉人材確保対策推進及び社会福祉分野への進学推進の参考資料、今後のソーシャルワーク教育の充実のための参考資料とすることを目的として、実施するものです。なお、本調査で得たデータは、統計的処理をしたうえで、報告書等で公表します。個人が特定できる形式での公表はいたしません。

【アンケート対象】

アンケート対象は、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が実施する「2019年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験」の受験者とし、マークシート形式のアンケート用紙に回答いただくものとします。回答はすべて統計的に処理しますので、個別の氏名、学校名、受験番号、各自の模擬試験の得点、問題の解答番号等が明らかになることは一切ありません。また、上記目的以外に使用することも一切ありません。

なお、本アンケートへの回答は、任意です。回答の有無あるいは内容によって、あなたに不利益が生じることはありません。本アンケートへの回答をもって、趣旨への同意を得られたものとさせていただきます。

【注意】

- ・上記アンケートA及びBの回答マークシートは1枚にまとまっています。続けて回答してください。
- ・以降のアンケート質問紙は、共通・社会専門・精神専門のすべての問題冊子に掲載されています。試験終了後、試験官の指示に従って回答してください。

A. 模擬試験難易度アンケート

あなたが受験した以下の〔1〕～〔25〕の科目に関して、それぞれあなたの印象（簡単か・難しいか）に最も近い評価の数字をマークシートに従って塗りつぶしてください。

〔1〕 人体の構造と機能及び疾病	〔14〕 相談援助の理論と方法
〔2〕 心理学理論と心理的支援	〔15〕 福祉サービスの組織と経営
〔3〕 社会理論と社会システム	〔16〕 高齢者に対する支援と介護保険制度
〔4〕 現代社会と福祉	〔17〕 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
〔5〕 地域福祉の理論と方法	〔18〕 就労支援サービス
〔6〕 福祉行財政と福祉計画	〔19〕 更生保護制度
〔7〕 社会保障	〔20〕 精神疾患とその治療
〔8〕 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	〔21〕 精神保健の課題と支援
〔9〕 低所得者に対する支援と生活保護制度	〔22〕 精神保健福祉相談援助の基盤
〔10〕 保健医療サービス	〔23〕 精神保健福祉の理論と相談援助の展開
〔11〕 権利擁護と成年後見制度	〔24〕 精神保健福祉に関する制度とサービス
〔12〕 社会調査の基礎	〔25〕 精神障害者の生活支援システム
〔13〕 相談援助の基盤と専門職	

B. 進路意向（就労状況）アンケート

Q1 あなたの年齢（年代）を選んでください。

- 1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代 6 70代以上

Q2 国家試験の受験予定について、当てはまるものを1つを選んでください。

- 1 来年（2020年）2月の国家試験を受験する 2 再来年（2021年）以降の国家試験を受験する
3 国家試験を受験する予定はない

Q3 上記Q2で1又は2を選んだ方にお伺いします。受験予定の国家試験を選んでください。（複数回答可）

- 1 社会福祉士国家試験 2 精神保健福祉士国家試験

【実習に関する質問】 注：実習とは社会福祉士・精神保健福祉士を取得するための「相談援助実習」を指します

Q4 あなたは学校（養成校）で実習（社会福祉士・精神保健福祉士の受験資格を得るために必要な実習）を行いましたか？当てはまるものを1つを選んでください。

- 1 行った → Q5へ進む 2 実習中 → Q5へ進む 3 行っていない（実習免除など） → Q9に進む

Q5 あなたが学校（養成校）で実習を行った分野をすべてを選んでください。（複数回答可）

- 1 高齢者福祉関係 2 障害者福祉関係 3 児童・母子福祉関係 4 生活保護関係 5 地域福祉関係
6 医療関係（精神科以外） 7 行政相談所関係 8 精神保健福祉関係（精神科医療機関を含む） 9 その他

Q6 就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の選択にあたり、実習の経験から肯定的な影響（実習経験と同様の就職先を選ぶ）を受けましたか、それとも否定的な影響（実習経験と同様の就職先を避ける）を受けましたか。当てはまるものを1つを選んでください。

- 1 肯定的な影響を受けた 2 どちらかというとな肯定的な影響を受けた
3 どちらかというとな否定的な影響を受けた 4 否定的な影響を受けた
5 特に影響を受けなかった

Q7 上記Q6で1、2、3、4（5以外）を選択した方にお伺いします。誰又は何から影響を受けたかについて当てはまるものを選んでください。（複数回答可）

- 1 実習を行った施設・機関に影響を受けた 2 実習先の実習指導者に影響を受けた
3 実習先の職員（実習指導者以外）に影響を受けた
4 実習先の利用者等に影響を受けた 5 実習先が立地する地域に影響を受けた

Q8 上記Q6で1又は2を選択した方にお伺いします。就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の選択に関して、当てはまるものを1つ選んでください。

- 1 実習を行った施設・機関に就職したいと考えている
2 実習を行った施設・機関に就職した（内定含む）

【学校（養成校）、進路選択に関する質問】

Q9 あなたが社会福祉分野の学校（養成校）で学ぶことを目指した（意識した）年代を1つ選んでください。

- 1 幼少期 2 小学生（低学年） 3 小学生（高学年） 4 中学生
5 高校生 6 大学生 7 社会人 8 その他

Q10 あなたが社会福祉分野の学校（養成校）で学ぶことを目指した理由を選んでください。（複数回答可）

- 1 人の役に立ちたいから 2 人とかかわるのが好きだから 3 親族・友人等に福祉の支援を受けた人がいたから
4 自分が福祉の支援を受けたことがあるから 5 親族・友人等が福祉の仕事をしているから
6 安定している分野だと思ったから 7 社会で重要な仕事だと思ったから 8 親族に勧められたから
9 学校の先生に勧められたから 10 友人に勧められたから・誘われたから 11 その他

Q11 あなたが社会福祉分野への就労を目指した（意識した）年代を1つ選んでください。

- 1 幼少期 2 小学生（低学年） 3 小学生（高学年） 4 中学生
5 高校生 6 大学生 7 社会人 8 その他

Q12 あなたが社会福祉分野での就労を目指した理由を選んでください。（複数回答可）

- 1 人の役に立ちたいから 2 人とかかわるのが好きだから 3 親族・友人等に福祉の支援を受けた人がいたから
4 自分が福祉の支援を受けたことがあるから 5 親族・友人等が福祉の仕事をしているから
6 安定している分野だと思ったから 7 社会で重要な仕事だと思ったから 8 親族に勧められたから
9 学校の先生に勧められたから 10 友人に勧められたから・誘われたから 11 その他

Q13 あなたが社会福祉分野への就労や学校（養成校）を目指した際、周囲に否定的な反応を示した方はいましたか。当てはまる人を選んでください。（複数回答可）

- 1 親族が否定的だった 2 高校の先生が否定的だった 3 友人・知人が否定的だった
4 実習先の職員が否定的だった 5 特に否定的な反応を示した人はいなかった

【就職、就職活動に関する質問】

Q14 あなたの現在の就職、就職活動の状況を1つ選んでください。

- 1 既に就労中 2 内定 3 就職活動中 4 これから就職活動をする 5 進学（大学院等） 6 その他

Q15 上記Q14で2を選択した方にお伺いします。本年度に内定が出た時期を1つ選んでください。

- 1 4月～5月頃 2 6月頃 3 7月頃 4 8月頃 5 9月頃 6 10月頃 7 その他

Q16 上記Q14で1または2を選択した方にお伺いします。就労形態を1つ選んでください。

- 1 常勤（正職員） 2 非常勤 3 その他

Q17 あなたの就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の分野を1つ選んでください。

- 1 高齢者福祉関係 2 障害者福祉関係 3 児童・母子福祉関係 4 生活保護関係 5 地域福祉関係
6 医療関係（精神科以外） 7 行政相談所関係 8 精神保健福祉関係（精神科医療機関を含む） 9 その他

Q18 あなたの就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）の運営主体を1つ選んでください。

- 1 社会福祉法人（社会福祉協議会を除く） 2 医療法人（病院等） 3 国・地方公共団体
4 特定非営利活動法人（NPO法人） 5 社会福祉協議会 6 福祉に関係する一般企業 7 一般企業
8 その他

Q19 あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選ぶにあたって影響を受けた体験のうち、当てはまるものを3つまで選んでください。

- 1 学校（養成校）で履修した座学の授業の内容 2 学校（養成校）で履修した実習
3 学校（養成校）で履修した演習科目 4 ボランティア活動 5 アルバイト経験
6 部活・サークル活動 7 その他

Q20 あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選ぶにあたって影響を受けた人のうち、当てはまるものを3つまで選んでください。

- 1 実習先の実習指導者 2 実習先の職員 3 ボランティア先の職員 4 アルバイト先の職員
5 学校（養成校）の先生 6 友人 7 親族 8 その他

Q21 あなたが就職予定先・就職活動先（就労されている方は現在勤務先）を選ぶ上で重視することについて、当てはまるものを5つまで選んでください。

- 1 仕事のやりがいがある 2 給料・賃金が高い 3 労働時間や休日の取得が希望に沿う
4 職場の環境（建物・立地等）が良い 5 自宅から通勤が可能
6 就職後のキャリアアップが用意されている 7 職場の人間関係が良好 8 雇用が安定している
9 実施事業や業務内容が魅力的である 10 地域に密着した活動を行っている
11 先輩や知人が就職予定先・就職活動先で働いている 12 設立されてからの歴史が長い
13 社会的に評価されている

Q22 就職（就労されている方は転職）に関する情報をどこから得ていますか。（複数回答可）

- 1 学校（養成校）の求人情報 2 求人情報会社のウェブサイト
3 就職予定先・就職活動先の法人等のウェブサイト 4 就職情報サイトのSNS（TwitterやInstagram等）
5 採用活動を行う法人等のSNS（TwitterやInstagram等） 6 専門職団体のウェブサイト 7 合同説明会
8 教員 9 先輩や卒業生 10 その他

Q23 就職（就労されている方は転職）に関する情報を得るために、便利だと思うものはなんですか。（複数回答可）

- 1 学校（養成校）の求人情報 2 求人情報会社のウェブサイト
3 就職予定先・就職活動先の法人等のウェブサイト 4 就職情報サイトのSNS（TwitterやInstagram等）
5 採用活動を行う法人等のSNS（TwitterやInstagram等） 6 専門職団体のウェブサイト 7 合同説明会
8 教員の情報提供 9 先輩や卒業生の情報提供 10 その他

